

「また着たい」という思いを叶える着物リメイク

リサイクル

エシカルファッション

普及・啓発

株式会社アゲイン

代表者：代表取締役社長 稲實 房子
所在地：徳島県名西郡石井町高川原字高川原
966-4
設立：昭和62年5月23日
従業員数：4名(役員含む)
事業内容：着物リメイク、オリジナルグッズ制作

〇お客様の要望に応えた着物のリメイク

お客さんからのたんすに眠っている着物をリメイクしてほしいという要望に応え、10年ほど前から、着なくなった着物から洋服や小物等の製作を始めた。元々洋裁の仕事長くしており、シルクの着物や豪華な加工の施された帯などの、上質な素材を捨てるのはもったいないと考え、留袖や訪問着、振袖などをワンピースやロングドレス、バッグなどにリメイクしてきた。徐々に着物のリメイクの要望が増え、2011年には着物リメイクショップを開店し、お客さんの「思い出の着物だから捨てたくない、何らかの形で手元に置いておきたい」との思いをくみ取り、オーダーメイドで製作している。

中には、車椅子でしか外出できなくなった母が、孫娘の結婚式に「着れる衣裳がない」という理由で出席を渋っているという息子さんからの要望で、留袖をリメイクした。体型や着せやすさを考慮し、車椅子に座ったときに美しく見えるよう、上下に分離し二部式にし、リメイクした結果、母は喜んで孫娘の結婚式に参加してくれたという。

〇エシカル消費との出会い

エシカル消費という言葉を知ったのは、2018年3月、知り合いに紹介されて参加したイベント「とくしまエシカルアカデミー in 阿波市」だった。自身がかねてより取り組んできたことが、「資源を大切にする」、「伝統の文化、伝統技術を守る」、「地域の高齢者の経済活動の支援」などといった点からエシカル消費につながっていると感じ、積極的に地域にエシカル消費を知ってもらうための活動を行うようになった。

同社の代表である稲實氏は、地元石井町のショッピングセンターにエシカル消費に関するイベントの開催を掛け合い、令和元年8月5日に「エシカルってなあに？」という小学生向けのイベントを開催することに成功した。このイベントを開催するために、石井町・石井町教育委員会・徳島エシカルネットワーク(石井町・阿波市・美馬市・徳島市の住民による組織)による「石井町エシカル実行委員会」が設置され、イベント当日には町長や町内にある県立高校生も参加し、町ぐるみでエシカル消費に取り組もうという機運が高まった。

〇高齢化による人材不足

稲實氏は、着てもらえなくなった着物をどんどんリメイクして使ってもらえるようにしたいと思っているが、高齢化により作業を担う職人が減少し、お客さんの依頼に対してすぐに対応できないことに悩んでいる。

常時作業をしてもらっているのは、以前から洋裁等の仕事をしていた50代から80代の女性10名で、外に働きに出れない状況の彼女たちの家に、稲實氏が仕事を持って訪問している。「仕事があると張り合いもできるだろうし、暮らしぶりが気になるので定期的に訪問するようにしている。」と稲實氏は言う。

高齢化が進み、若い人が洋裁を習わなくなったため、今後も人材不足は進む一方で、祖母や母親の着物を受け継ぐ人が減り、処分されてしまう着物は今後も増えていくだろうと感じている。

実際に、身の回りの生前整理として、着物を無償で提供してくれる人が増え、作業場の片隅には多くの箱が積まれたままになっている。

〇今後の活動

稲實氏は、この秋に開催される「越日経済・文化交流フェスティバル」に参加し、ベトナムでの着物リメイクができないかどうかを模索している。徳島県内の各大学にはベトナムからの留学生も多く、民間レベルでの交流が進んでおり、日本をよく知るベトナムの人に、着物のリメイクをしてもらいたいと考えている。

日本の着物という伝統文化の粋が詰まった素材の良さをいかした商品を作り、世界にPRすることが目標である。



公表日：令和元年10月23日 取材：令和元年8月
外部リンク：<http://www.again-plus.com>